

雌阿寒岳

○ 11 月の火山活動評価：静穏な状況

火山活動に特段の変化はなく、静穏な状況です。

○ 11 月の活動概況

・ 噴煙及び熱活動（図 2）

赤沼火口、北西斜面06噴気孔列及びポンマチネシリ96-1火口の噴煙活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、噴煙高度は概ね火口縁上100m以下で推移しました。

・ 地震活動（図 2、図 3、表 1）

火山性地震は一日あたり 0～3 回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。求まった震源はポンマチネシリ火口の浅い所に分布しており、これまでと比べて特に変化はありませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図 4、図 5）

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は観測されませんでした。

○ 噴火警報、噴火予報の発表状況（12 月 6 日現在）

気象庁は平成 19 年 12 月 1 日より、雌阿寒岳について噴火警報及び噴火予報の発表を開始しました。それに伴い、12 月 1 日に以下のような噴火予報を発表しました。

なお、噴火警報、噴火予報と噴火警戒レベルについては気象庁ホームページを参照ください。

・ 活動状況及び予報警報事項：平常

火山活動は、これまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。雌阿寒岳の噴火予報・警報は、噴火予報（平常）です。

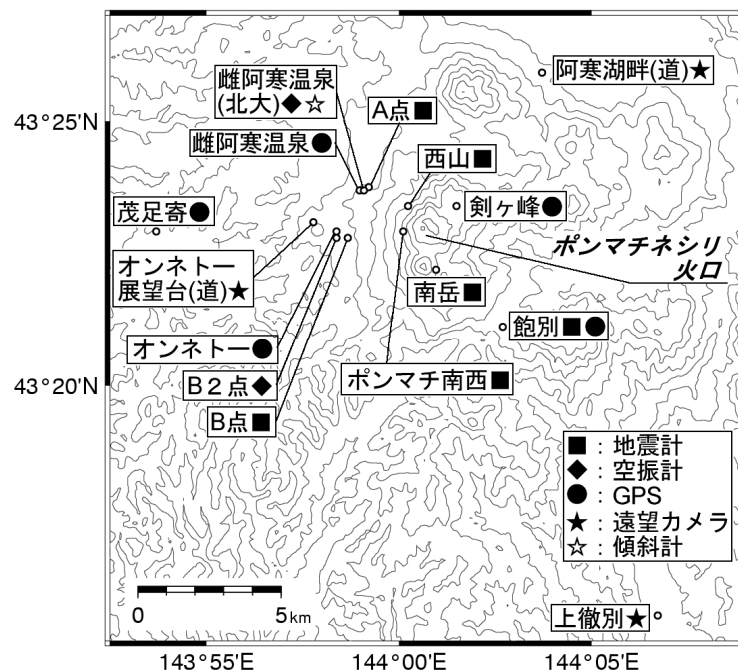


図 1 雌阿寒岳 火山観測点配置図

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道、北海道立地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

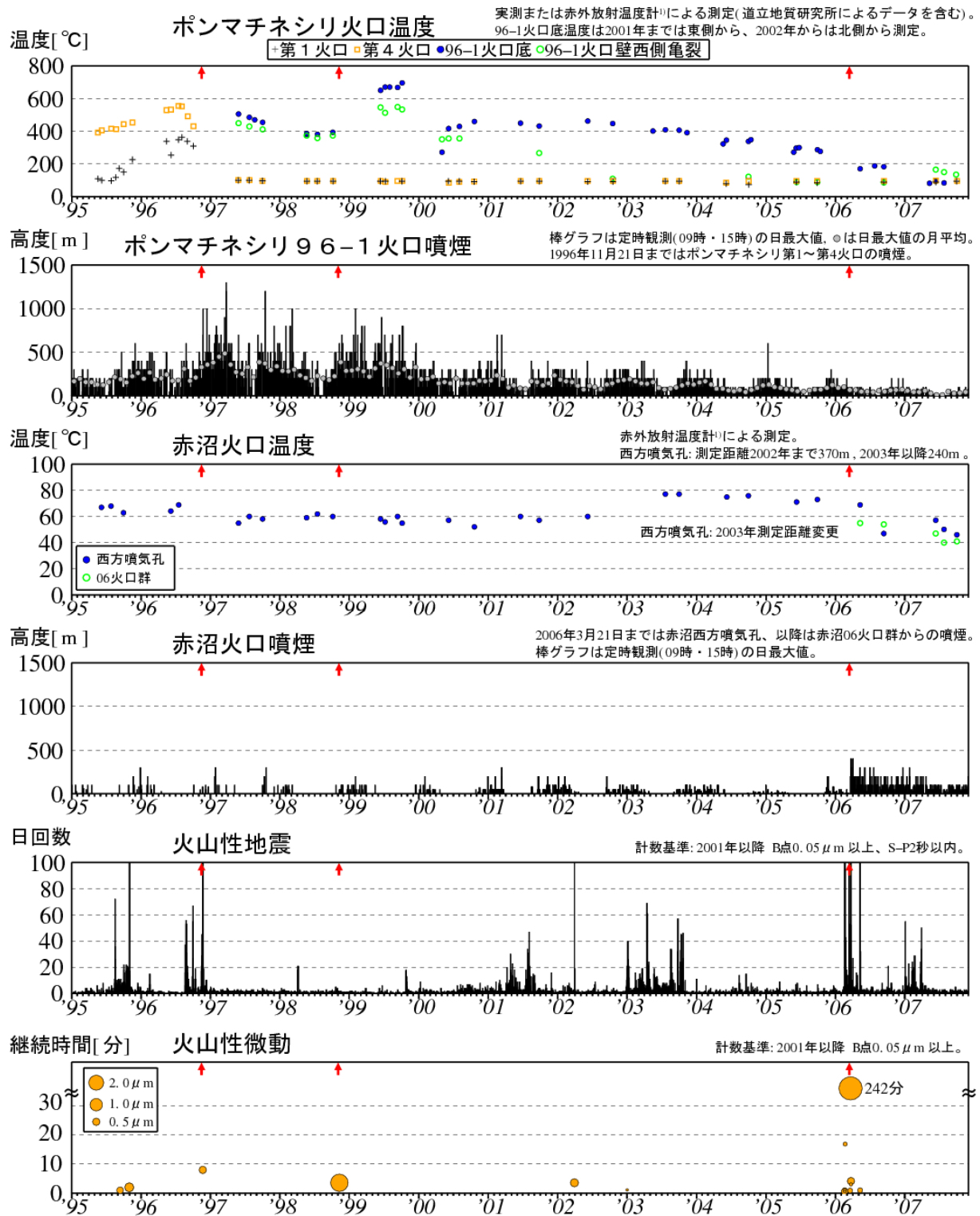


図 2※ 雌阿寒岳 最近の火山活動経過図(1995 年 1 月～2007 年 11 月) ↑印は噴火

(1996 年、1998 年: ポンマチネシリ 96-1 火口からの噴火、2006 年: 赤沼火口からの噴火)

- ・ ポンマチネシリ 96-1 火口の熱活動、噴煙活動は 2000 年以降徐々に低下し、その傾向は 2003 年以降明瞭になっています。2006 年 3 月の小噴火後もこの状況に変化は見られていません。
- ・ 赤沼 06 火口群の噴煙活動は、2006 年 3 月の小噴火後は活発な状況でしたが、その後活動は次第に低下し、最近では静穏な状況で推移しています。
- ・ 地震活動は、2006 年 3 月の小噴火の前後は活発な状態で推移していました。その後は、2007 年 1 月～3 月に一時的に地震が増加したほかは低調な状態で推移しています。

表 1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数（B 点：図 3 の MEAB）

2006～2007 年	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月
地震回数	20	195	228	213	67	32	28	32	18	32	32	23
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

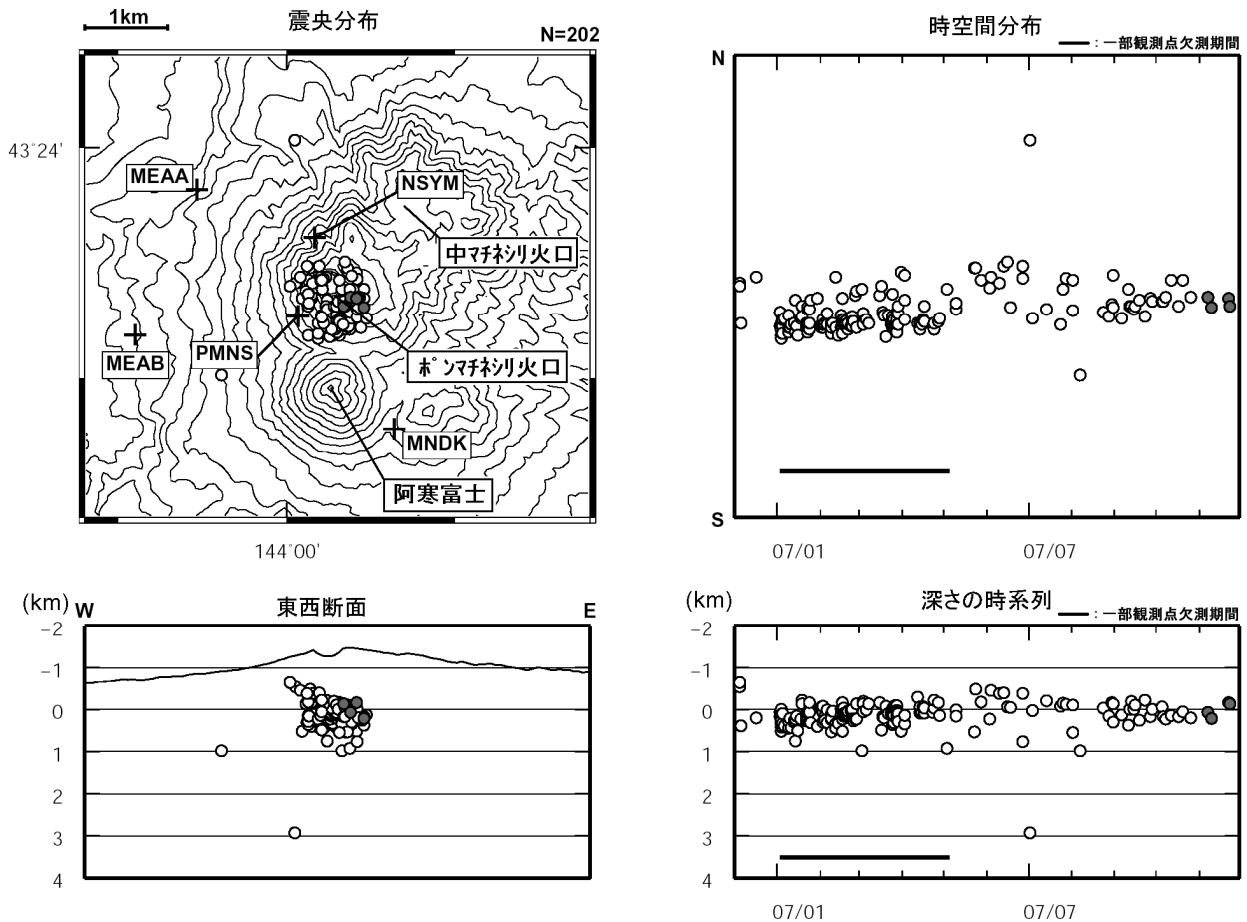


図 3 雌阿寒岳 震源分布図(2006 年 12 月～2007 年 11 月、+は地震観測点)

2007 年 1 月 3 日～5 月 5 日にかけて一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度も低下しています。

●印は今期間（2007 年 11 月）の震源

○印は前期間までの 11 ヶ月間（2006 年 12 月～2007 年 10 月）の震源

- ・前期間までの震源の多くは、ポンマチネシリ火口直下の浅い所（山頂から深さ 1～3 km 付近）に分布しています。今期間に求まった震源も概ねこの領域内に分布しています。

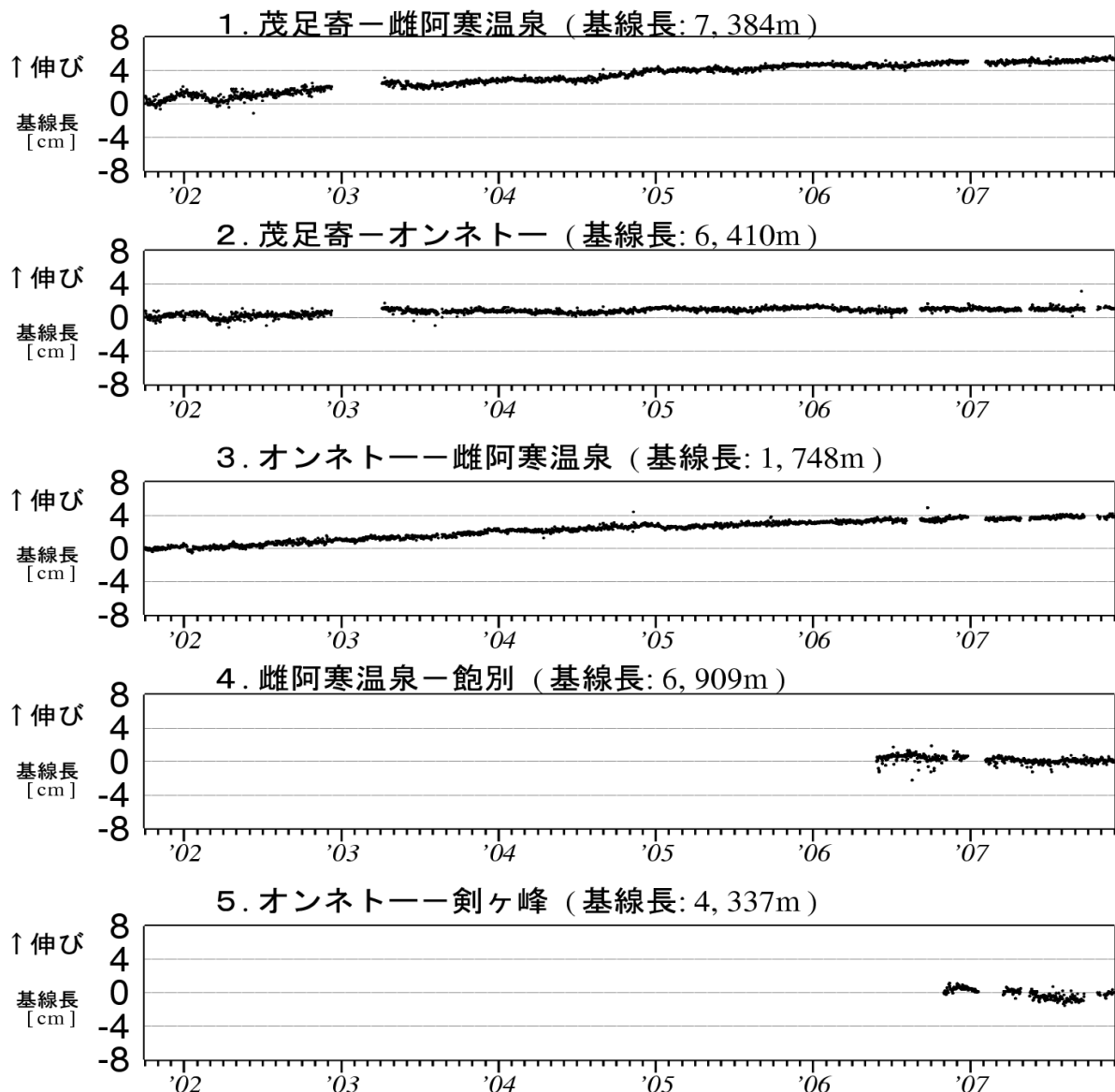


図4 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化（2001 年 10 月～2007 年 11 月）
 グラフの空白部分は欠測
 図4の1～5は、図5のGPS基線①～⑤に対応しています。

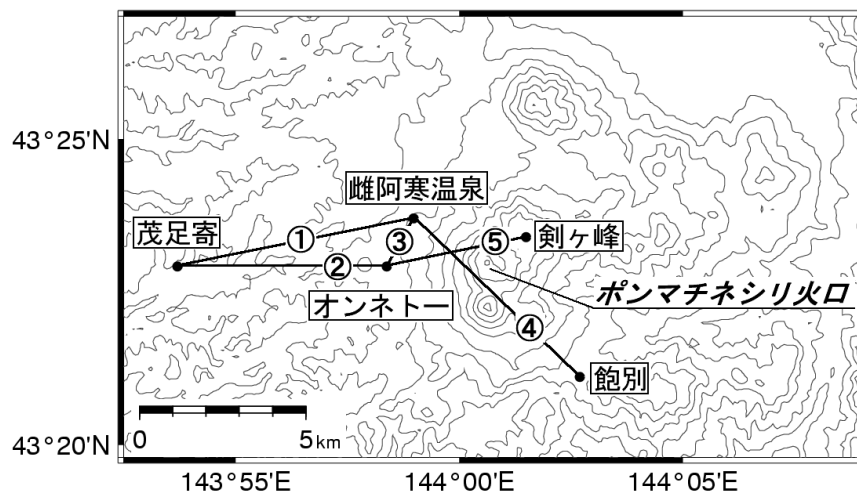


図5 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図